

令和元年度 第1回 豊田市自転車利用環境整備推進会議

議事概要

1. 日 時 令和元年10月1日(火) 10:00~11:40
場 所 豊田市役所 東大会議室3
参 加 者 別紙一覧のとおり
2. 議 題 (1) 前回議事内容と本日の予定
(2) (仮称) 豊田市自転車活用推進計画(骨子案)
(3) (仮称) 自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例制定について

3. 規約の改正

○規約の改正について

- ・委員変更の説明。(事務局)

→了承(委員)

4. 議事概要

○議長挨拶(議長)

- ・近年自動運転技術や情報網の発展が進んでおり、自動運転社会の機運が高まっている。
- ・自転車は基本的な交通移動手段として、将来にわたって利用価値が高く残っていくものである。自動運転社会になっても、自転車が安全に利用できるまちづくりを考えていきたい。

(1) 第1回議事内容と本日の予定【資料4】

- 3本の柱(「空間づくり」「意識づくり」「仕組みづくり」)で連携して事業を推進している中で、各々アンケートなどを取っている。一元化できると良い。P4について、自転車通行空間整備済路線の自転車事故が5割削減しているが、具体的にどのような事故が減少したのか。(委員)
→車両相互や出会い頭事故は減少している。しかし、自転車が歩道や車道(自転車通行空間)を走っている状況があるため、ドライバーは歩道と車道の両方を意識しなければならない状況である。歩道を走行している自転車の左折巻き込み事故が発生している。(事務局)
→整備後も発生している事故類型に注視して、事故状況を考察する必要がある。(議長)
- P8について、自転車の交通事故の属性で30~40代に着目している。この年代は自動車にもよく乗る人が多い。移動する際、自動車から自転車といった、交通手段を複数利用する方が多いと思う。それぞれの利用者目線で、自転車目線及び自動車目線両者に対してルールを認知していく必要がある。そのような仕組みづくりが大事である。(委員)

→自転車交通マナーに関するアンケートを実施した結果、自転車の交通マナーが悪いと感じる人はドライバーが多い。しかし、自転車を利用する人は自転車の交通マナーを意識しているとアンケート結果にあった。自身が利用する交通手段（自動車のみなど）でのルールしか理解していない傾向にあるので、両側面（自転車・自動車）への意識啓発が重要であると認識している。（事務局）

→その課題を克服するような施策を検討してほしい。（議長）

（２）（仮称）豊田市自転車活用推進計画（骨子案）【資料 5】

■ P11 について、豊田市駅周辺エリアの外周部分が、枠線がかぶって完成形態を把握できない。
（委員）

→R153 については自転車専用通行帯、R248 は自転車道が完成形態。交通量、規制速度で選定している（事務局）

→網掛にするなど見せ方を工夫してほしい。（議長）

→承知した。（事務局）

■ P3～P5 について、自転車事故死傷者数が増加傾向であることや、エコ通勤参加企業数が増加傾向であることから、自転車利用者の割合が増加傾向な気がするが、減少傾向であることが矛盾しているように感じる。因果関係は分かるか。（委員）

→エコ通勤参加企業数は増加傾向であるが、自転車通勤者の割合は増加していない。また、豊田市全域の自転車利用者の利用率（分担率）は平成 22 年の国勢調査や平成 23 年の P T のデータを使用している。10 年ごとに調査があり、調査結果の傾向を分析すると自転車利用者の割合が減少している。来年度に国政調査があるので、最新のデータを用いて分析していく予定である。（事務局）

→原因分析をしていただきたい。（議長）

■ P4 について、小中高生に対する交通安全講習の実施回数 133 回/年は多い方なのか。（委員）

→小学校 4 年生、中学校 1 年生は市内ほぼ全て対応している。高校は一部豊田市交通安全学習センター以外の講習を受けているが、大多数の方が受講できていると考えている。（事務局）

→豊田市交通安全学習センターで実施した学校数は何校か。（議長）

→小学校は 75 校、中学校は 28 校実施している。各学校、年 1 回程度実施している。また園児の教育も実施しているため、年間スケジュールを考えるとこれ以上増やすのが難しい。（事務局）

→中学校 1 年生や高校 1 年生の定期講習だけでなく、毎年講習を受けさせる学校もある中で、市として定期講習以外の取組をどのように考えているか。（委員）

→定期講習以外の年次でも、講習を行うことは重要であると考えているが、まずは段階に応じた講習を行っている。要望があり、豊田市交通安全学習センターの余裕があれば行う考えである。
（事務局）

→例えば中学校 1 年生、高校 1 年生を対象に実施しているとすると、数年間空白となってしまう。
また、教育は自転車乗り始めに行うことが効果的と考えている。小学 4 年生ではなく、もう少し早い年代で講習を始めても良い気がする。(議長)

■小学校への教育について、小学校 1 年生の保護者に対する教育は行っているのか。(委員)

→現段階では実施していない。今後制定予定である条例等により、保護者への対応も必要になると考えている。(事務局)

→未就学児に対しては、(園や保護者の会が主催して)道路交通ルールの講習などが行われているが、保護者向けに自転車の安全利用についての周知をしていく必要もある。(事務局)

■交通安全講習後にアンケートを行い、保護者や利用者の意識が低下しないようフォローが必要ではないか。講習を行っても、時間が経つと意識が低下していく。自転車の交通マナーの意識が高まれば、交通事業者(タクシー、バス等)も安心すると思う。(委員)

→アンケートは学校職員を対象に行っており、学校側でフォローを行っている。(事務局)

→矢羽根設置箇所では、設置後に自転車利用ルールも含めたアンケートを実施している。整備後は、PR を兼ねた街頭での啓発活動を行っているが、継続的な実施も含めてより効果的なものになるよう検討する。(事務局)

■中高生を対象にした自転車に関するアンケートを行っているが、結果はいかがか。(議長)

→「講習前後での意識の変化」「自転車利用ルール認知度」等に関するアンケート調査や、講習直後及び 1 か月後にビデオ観測を行い、自転車の利用状況を確認している。分析途中結果ではあるが、講習後 1 ヶ月経つと利用状況が元に戻ってしまう傾向がある。自転車利用ルールの認知が下がらないような対策検討が必要である。(委員)

→自転車利用ルールの認知度が低い項目は何か分かるか。(議長)

→矢羽根の意味が理解されていない。(委員)

■健康に対する具体的な措置が触れられていないがどうか。(委員)

→矢作川の河川敷のサイクリングルートの整備に合わせて、何 km 走行したら何キロカロリー消費したのかわかる看板を立てるなど、健康増進に繋がるような取り組みを、健康部局と今後協議していきたいと考える。(事務局)

→自転車利用時の走行キロや消費カロリーが分かるアプリを作るなど、仕組みを作ってはどうか。(委員)

→「サイクルコンピュータ」というものがあるが、走行キロや消費カロリー、心拍等が計測可能。 아이폰アプリでも、CO2 削減の分かるアプリもある。(委員)

■空間づくりについて、実証実験を行い、市民ニーズを把握してから整備するなど、整備する前にフ

ンクッション置くと良いのではないか。(委員)

→現状の利用率が 13%であり、これは他都市と比較して低いと思う。利用率向上を図るなどの取組が必要。(議長)

■通勤通学者の自転車分担率を、エリアごとに把握してはどうか。(委員)

→全市的に把握することが望ましいが、まずは外環状線内の重点エリアで把握してみてもどうか。

(議長)

→検討する。(事務局)

■会社内では、「健康」を掲げるとき交通手段は徒歩を推奨している。また、健康診断で BMI25 以上の社員には健康に関する教育を行う。自転車の通勤手当はなく、自動車通勤で申請し、夏は自転車、冬は自動車など、交通手段を季節で切り替える社員が多い。

会社までが上り坂なので、夏に自転車に乗ると汗をかきやすく社内にはシャワー室もないため、女性は自転車に乗りにくい傾向にある。自転車のルール・マナーが悪いという苦情が届いており、自転車利用が増える春から夏の時期に、実態調査を行い、自転車利用者がいる部署では、自転車利用ルールの認知度の低い項目について、グループディスカッションを行い、理解を深める機会を設けている。(委員)

→社内の BMI のデータを把握し、自転車利用者の BMI の変遷がわかると良いと思う。(議長)

■豊田市内は短い区間を移動するにも勾配が多いため、自転車に乗りづらい。主婦は買い物の荷物などを持って自転車に乗ることは体力的にも厳しい。ドライバー目線では、学校の登下校時に注意して運転することが多く、逆走する自転車もいる。(委員)

→電動アシスト自転車は起伏の激しい道路は対応できると思うが、女性は体力的に厳しいと感じる。(議長)

(3) (仮称) 自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例制定について【資料 6】

■自動車保険等のオプション等に、自転車損害賠償保険があることを知らない人が多いと思うので、広く周知した方が良い。

以上